

令和7年度(2025年度)用

中学校国語科用

「新編 新しい国語」 年間指導計画作成資料

① 指導計画作成の手引き

令和6年(2024年)7月29日版

東京書籍

(1)「新編 新しい国語」の構成と特徴

《全体構成》

- ・「新編 新しい国語」は、各学年とも本編と資料編からなり、本編だけで学習指導要領の内容を漏れなく指導できます。また、教科書の各ページに示した2次元コードからアクセスして利用できる、デジタルコンテンツ（以下 QRコンテンツ）を用意しています。

《本編》

- ・本編は8つのまとまりからなります。それぞれのまとまりは、「読む」「古典」教材から始まり、次に「書く」「話す・聞く」教材へ、最後に「言葉（日本語・文法・漢字）」教材へとつながる構成になっています。「読む」「書く」「話す・聞く」教材の間には、適宜「学びを支える言葉の力（情報と論理の学び・文学の学び・対話の学び）」を配置しています。
- ・各まとまり内の「読む」と「書く」「話す・聞く」の教材は、育成する資質・能力や題材などにおいて関連が図られています。そのため、「読む」で習得した資質・能力を「書く」「話す・聞く」で活用するといった連続性のある学習が可能です。一方、個々の教材は単独で扱える内容になっているため、順序を自由に組み替えて指導することも可能です。
- ・「読む」「書く」「話す・聞く」の各教材は、「言語感覚」「詩歌創作」「聞く」など、育成する資質・能力に基づく系統で区分しています。そして、同じ系統の教材を、学年を追って段階的に配置しています。そのため、3年間を通して資質・能力をバランスよく積み上げることができます。
- ・本編末には「文法解説」をまとめて掲載しています。導入としての「文法の窓」と、詳しい解説の「文法解説」を併せて学習することを想定しています。
- ・8つのまとまりのほかに、「読む」の「言葉の学習」「詩」「読書」教材があります。

- ・各学年末に、まとめの教材として「未来への扉」を配置しています。教科書では、国語の学習を通して自分や社会の未来について考えることができるように、「未来を考えるための9つのテーマ」（「自己と他者」「学校・社会」「科学と探究」「安全・防災」「情報社会」「多様性」「伝統と文化」「地球環境」「平和・国際理解」）を設定しており、各教材には関連するテーマを示しています。そして、各学年末の教材「未来への扉」では、9つのテーマを振り返ったり、それまでに学習したことを生かして、特定のテーマについて考えを深めたりすることができるようになっています。

本編の構成（全学年共通）

	読む／古典	書く	話す・聞く	言葉	時期	3学期制	2学期制
	詩（巻頭詩）				4月	1学期	前期
	言葉の学習			○ (1年のみ)	4月		
1	言語感覚	詩歌創作		○	4～5月		
2	文学1		聞く	○	5～6月		
3	構成・展開	伝達		○	6～7月		
	読書1				7月	2学期	後期
4	文学2	通信・手紙 (1・2年のみ)		○	9月		
5	吟味・判断	論証・説得		○	9～10月		
	詩（日本語のしらべ）				10月		
6	古典			○	10～11月		
7	言葉とメディア (3年は「文学3」)		話す	○	11～12月	3学期	
	読書2				12月		
8	文学3 (3年は「言葉とメディア」)	感性・想像	話し合う	○	1～2月		
	詩（詩の言葉）				2月		
	未来への扉				3月		

- ※「読む」「書く」「話す・聞く」教材の間に、適宜「学びを支える言葉の力」を配置。
- ※「言葉」教材には、「日本語探検」「文法の窓／文法解説」「漢字道場」の3系統がある。

《資料編》

- ・資料編には、本編の学びをさらに深めたり広げたりするための補助的な教材や、本編の学習に役立つ資料を収載しています。
- ・資料編は必修ではないため、指導時数を配当していません。資料編の教材を授業で扱う場合には、関連する本編教材の配当時数に組み込むか、あるいは予備の時数を使うなどしてご対応ください。

《QR コンテンツ》

- ・QR コンテンツにも、生徒が理解や活動の助けとしたり、学習をより深めたりすることのできる資料を多数収載しています。授業の中で活用するだけでなく、家庭学習でも活用できるものを用意しています。
- ・QR コンテンツは必修ではないため、指導時数を配当していません。QR コンテンツを授業で扱う場合には、関連する本編教材の配当時数に組み込むか、あるいは予備の時数を使うなどしてご対応ください。

(2) 指導計画の作成にあたって

- ・各教材は、「学習指導要領との対応・配当時数一覧」（本資料②）に示したとおり、学習指導要領に示された「知識及び技能」および「思考力、判断力、表現力等」の指導事項のいくつかを扱っています。多いものでは、「知識及び技能」で4つ、あるいは「思考力、判断力、表現力等」で3つの指導事項を扱っていますが、「年間指導計画例」（本資料③～⑤）では、なかでも重点的に扱う指導事項をグレーのハイライトで示しました。教科書に示した「目標」および「言葉の力」は、この重点指導事項に対応しています。
- ・教科書では「未来を考えるための9つのテーマ」を設定しており、各教材で関連するテーマに触れ、各学年末の教材「未来への扉」で、9つのテーマを振り返ったり、特定のテーマについて考えを深めたりすることができるよう

なっています。教科書および「年間指導計画例」に、各教材と関連する「未来を考えるための9つのテーマ」を示しました。9つのテーマについての1年間を通した指導のほか、「総合的な学習の時間」等での探究学習や、カリキュラム・マネジメントの参考にさせていただきます。なお、教科書の各学年末の教材「未来への扉」内に、各教材と9つのテーマの関連をまとめて示しています。

- ・教科書および「年間指導計画例」に、各教材と他教科の学習内容との関連を示しました。カリキュラム・マネジメントの参考にさせていただきます。
- ・教科書および「年間指導計画例」に、資料編教材やQR コンテンツが活用できることを示しました。なお、QR コンテンツの内容や利用の仕方については、各学年とも教科書P11 および巻末折込をご覧ください。

(3) 「年間指導計画例」の見方

「年間指導計画例」の各項目の概要は、以下のとおりです。

《グレーの行》

- ・本編の各まとまりの番号と名称、配当月、配当時数の合計を示しました。

《領域〈系統〉教材名／ページ数・配当時数／未来への扉・他教科との関連》

- ・領域と系統（〈 〉内）、教材名、ページ数、配当時数を示しました。
- ・「未来への扉（未来を考えるための9つのテーマ）」と関連がある場合にはそのテーマを、他教科の学習内容と関連がある場合にはその教科を示しました。

記号の意味

- 未来**……………「未来への扉（未来を考えるための9つのテーマ）」との関連
- 他**……………他教科との関連

《学習目標・学習指導要領との対応》

- ・学習目標を示しました。「読む」「古典」「書く」「話す・聞く」については、教科書に示した「目標」と同じ内容です。
- ・学習指導要領の指導事項や言語活動例との対応を示しました。また、重点的に扱う指導事項はグレーのハイライトで示しました。

記号の意味

[知技] …… 「知識及び技能」の指導事項

[思判表] …… 「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

グレーのハイライト表示（例：C(1)イ）は重点指導事項

㊦ …… 「思考力、判断力、表現力等」の言語活動例

《学習活動例》

- ・学習活動の例を示しました。

記号の意味

* …… 指導上の留意点や別案

(P○) …… 教科書のページ数

言葉の力 …… 教科書に示した「言葉の力」

古典コラム …… 教科書に示した「古典コラム」

資 …… 資料編の活用

QR …… QR コンテンツの活用

《評価規準例》

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による評価規準例を示しました。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準例は、扱っている全ての指導事項について設定しました。重点指導事項に対応する評価規準例はグレーの

ハイライトで示しました。

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、次の2つの側面を評価することが求められています。

①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面

②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面
評価規準例は、このことを踏まえ、次の4つの内容を含めることに留意して設定しています。

①粘り強さ

②自らの学習の調整

③他の2観点において重点とする内容

④当該単元の具体的な言語活動

記号の意味

[知技] …… 「知識・技能」の評価規準例

[思判表] …… 「思考・判断・表現」の評価規準例

[主] …… 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準例

グレーのハイライト表示（例：[思判表]）は重点指導事項に対応